

4-18

全關西集會成

会に結果するすべての学友は、その徹身的活動をもつて、『中救審答答』、粉砕、大学民主的改革闘争勝利四・一八全関西学生総決起闘争』を、百名を越す市大学友の参加と四名名を上回る全関西の圧倒的学友の結果成功させた。
 この闘いの受け入れ校となった市大では、当日、新人生も含め文芸部の学友を中心として、工芸部に結果した百余名の学友と共に学内集会を開催した。
 ところが、この集会が成功したことを忌む者や否や、封鎖貫徹の一面を掲げ、河野の暴発を待たせようとした。

会に結果するすべての学友は、その徹身的活動をもつて、『中救審答答』、粉砕、大学民主的改革闘争勝利四・一八全関西学生総決起闘争』を、百名を越す市大学友の参加と四名名を上回る全関西の圧倒的学友の結果成功させた。
 この闘いの受け入れ校となった市大では、当日、新人生も含め文芸部の学友を中心として、工芸部に結果した百余名の学友と共に学内集会を開催した。
 ところが、この集会が成功したことを忌む者や否や、封鎖貫徹の一面を掲げ、河野の暴発を待たせようとした。

東京

A black and white photograph of a military band marching in a parade. The band members are wearing uniforms and carrying large flags. The background shows a crowd of spectators lining the street.

強まりを見せていることを充分理解できないでいる時に、我同盟が単独であつたことも、正しく、中教審や甲府粉砕の闘つ張を向かへてゐる。この意義も強く確認するべきであつた。この闘いがいま、全国民諸階層の闘いへと発展すること、とりわけ、高揚する青年学生運動が石壁的な、あるいは、極「左」的な部分を含みつつも、全体として政府独占と鋭く対決するのをえない段階にあること、即ち、この闘いは許さるべきこと、

その背景と内容

独占間矛盾の激化と
平和共存めざす斗

しかし、日帝のかねて侵略的意図も、内外の多くのを
え、その裏現は露でない。
又は、「日本並み」返還一つとてみて、「満州使が
實質上の自由使用と隔間したが、「外務省では」
間の利害対立の激化を予想し、事前協議は、「米の極
せたと判断し、「沖繩返還には、自由使用の明文化を
こつてゐる。

隣、「米帝や韓国、台湾は、フーカス・シチナ作戦
い事件で、「沖縄各地の重要性を強調し、案に日本政

核ぬき本土なみ論

基地撤去・即時返還を

轉換せよと要求する声が独占内、自民党内からで
れるようになった。サンズバードラ会談以降の反主
題に関する佐藤派批判の増大は、その一例である。
この矛盾を、日本帝國主義が、当面軍事侵略で解決

る闘いを通じて、日本政府のきまぬ本意を
核つき、自由使用を粉砕し、すべての軍事基地
即時無条件全面返還をせよといふに成功するのだ
と、一顧附屬列立を派
若附屬や日本人民へ懸念する時、一顧附屬列立を派
が統一戦線形成を客観的條件をつくりあげていく。
つて、安保条約を廃棄し、平和と中立の日本をめざ
県民を含む労働者階級を中心とする日本人民が、反
をつくり上げ、国内冷戦派とその代表若佐藤政府を
することを通じて、日本政府に平和共存政策を押し
いであらう。